

やまぐちっ子学力向上だより

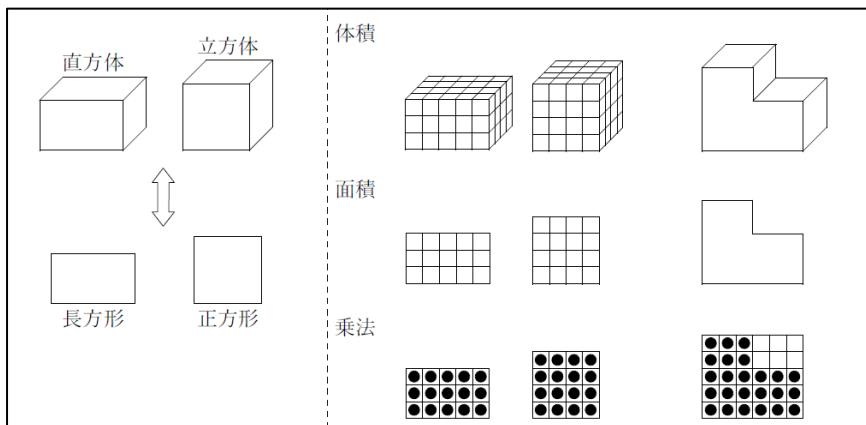
第167号 R8.6.8

山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習状況調査を踏まえた授業づくり

～ミドルリーダーレベルアップ研修（小学校算数）小山調査官の講義から～

令和8年度全国学力・学習状況調査、小学校算数の解説資料には、「本問に関わる単元づくりに向けて」が掲載されています。それを踏まえ、小山調査官からは、「統合・発展で単元をつくること」「既習事項をつなげながら学ぶこと」の重要性について御示唆をいただきました。



↑解説資料 p.14 本問に関わる単元づくりに向けて (1)

例えば、面積や体積の学習を、それぞれ別の内容として捉えるのではなく、既習事項と関連付けながら学ぶことが大切であることが示されています。（左図）

新しい内容を増やすのではなく、既習事項をつなげながら学ぶことが、これからの単元・授業づくりのポイントです。

小山調査官と参加者とのQ & A

Q 日常生活と結び付けて考えられるようにしたいのですが、教科書を進めるだけで精いっぱいです。どうすればよいでしょうか。

A 小山調査官が「特別な教材を探す必要はありません」と話されたとおり、教科書の問題には、箱、水の量、買い物、時間など、日常とつながる場面が設定されています。大切なのは、ただ“答えを求めて終わり”としないことです。「こんな場面、実際にあったらどうなりそうですか?」「教室の中にも同じ形がありますね。」と問い返すことで、子どもたちは、日常を算数・数学の視点で捉え始めます。

＜大切にしたい子どものつぶやきや教師の問い返しの例＞

「教室のドアって、長方形？正方形？」 「2Lなら1.6kg。3Lなら？」
「この問題の水槽の水って、途中で止まる？」 「前に学習した何が使えそう？」

Q 「説明する力」は、どこまで求めればよいのでしょうか。

A 小山調査官は、「長く説明すること」よりも、「どの言葉を使って考えるか」が大切であると話されました。

例えば、頂点、辺、面、○倍など、算数・数学で大切にしたい言葉があります。また、図で表す、式と言葉を関連付ける、数直線で関係を捉えるなどしながら、「なぜそうなるのか」を問い返していくことで、子どもたちは、答えだけではなく考え方を表そうとするようになります。そこで、算数・数学の言葉を使う姿を価値付けていくことが大切です。

授業改善を「組織で進める」実践が始まっています ～授業力向上実践研究指定校の取組から～

各学校では、校内研修等により授業改善の取組をスタートしていることと思います。本年度の県授業力向上実践研究については、次の7校を指定校としています。

■指定校一覧

指定校	主な研究内容
岩国市立 川下中学校	ユニバーサルデザインを基盤に、根拠をもって表現する力を育成。学びを「自分事」として捉える主体的な授業づくりを進めています。
田布施町立 田布施中学校区	町内全小中学校が「ポジティブ行動支援に基づく授業づくり」を基盤として授業改善に取り組み、「誰一人取り残されない」学びの充実を図ります。
光市立 三井小学校	「主体的に学ぶ子どもの育成」をテーマに、書く活動・対話活動・推敲を重視した授業改善を推進。表現する力の育成に取り組んでいます。
防府市立 桑山中学校区	小中合同研修会の取組を通して、生活科や総合的な学習の時間、各教科等の授業づくりを進めることで、子どもの資質・能力と教師の授業力の向上を図ります。
宇部市立 東岐波中学校	学び合いを大切にし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて研究。ICT活用や自由進度学習にも挑戦しています。
下関市立 豊浦小学校	自ら学びを創造する子どもの育成を通して、「つながり」を子どもの姿で語り合える教員集団と、共に探究し合う学習集団づくりをめざしています。
萩市立 明倫小学校	「自ら考え、判断し、表現する子ども」の育成をめざし、「見方・考え方を働かせた指導と評価の一体化」を重視しています。

各校の研修主任からは、次のような言葉が聞かれました。



研修主任や授業者だけでなく、先生方**全員で共通理解**しながら、**学校全体で同じ方向を向いて進めていくこと**に価値があると考えています。

- ▶ 互見授業や、チャットによる日々の実践共有などにより、めざす子どもの姿を具体的にイメージしながら話し合うなどして、授業改善の方向性を揃える学校もありました。



学びの成果については、授業中の発言や記述、振り返りだけでなく、**全国学力・学習状況調査や確認問題、アンケート等も活用して評価**し、子どもたちの変化を多面的に捉えるようにしています。

- ▶ 数値だけを見るのではなく、「その背景にどんな学びがあったか」を先生方と一緒に考えることも、先生方の授業改善や子どもの学習改善において大切な視点です。



今回の情報交換会を通して、各校の日頃の授業や校内研修の進め方を、もっと具体的に聞いてみたくになりました。そして、本校の取組がこれからどのように進んでいくのか、楽しみにになりました。

- ▶ 「**教師が学び続ける学校に、学び続ける子どもが育つ**」と掲げ、学びの相似形を強く意識する学校もありました。今回の学びが、各校の先生方へ、また子どもたちへと広がっていくのではないのでしょうか。

■**今後について** 今後、各指定校の公開授業研究会等を案内していきます。授業改善の具体的な実践に触れる機会として、積極的に御活用ください。

(参考) これまでの授業力向上実践研究指定校の実践事例はこちら

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/kyouiku/284569.html>

